

町民のみなさんと議会をつなぐ

びっふ議会だより

No. 125

令和7年11月

【表紙】「満月とススキ」

白寿大学 写真クラブ 久保田 鎮雄さん（8区）撮影

P4 一般質問 スバリ！ここが聞きたい

佐藤 良彦 議員 / 遠藤 ハル子 議員
植西 治一 議員

P7 令和6年度決算審議

P16 広報委員が聞く！町民インタビュー

令和6年度決算に基づく財政状況を報告

令和7年第3回定例会は、9月9日から11日まで開かれました。提出された計17件の議案・意見書のほか、町からの報告事項を慎重に審議しました。今号では、主な審議内容を5つピックアップし、ご紹介します。

将来負担比率が

2・3ポイント増加

令和6年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について次のとおり報告がありました。

実質公債費比率が微増となった主な要因は、これまでの基準年（令和3年）と比較して普通交付税額が減少したこと等によるもので、将来負担比率が増加した主な要因は、地方債現在高の増加等によるものです。

※実質公債費比率（借金割合）
⇒比率が高いほど自由に使えるお金が少ない

※将来負担比率（負債の重さ）
⇒比率が高いほど将来負担額が多く財政を圧迫する可能性が高い

項 目	数値 (R6)	数値 (R5)	早期健全化基準
実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	—
連結実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	—
実質公債費比率	6.9%	6.8%	25.0%
将来負担比率	9.0%	6.7%	350.0%

※早期健全化基準を超えた場合、財政状況の改善が求められる

pickup2 議案第3号 財産の取得

スキー場圧雪車を

5、610万円で購入

平成26年に購入した圧雪車について、毎年メンテナンス作業を行っていましたが、購入から10年以上が経過し、経年劣化による作業中の故障等が発生し、ゲレンデ整備に支障をきたしていたことから、昨シーズンは圧雪車をレンタルして対応していました。

今回、昨シーズンにレンタルした圧雪車を更新車両として購入します。

議員の質疑・町の回答

Q 昨年、圧雪車をレンタルしていたが、なぜ購入に至らなかったのか。スキー場に係る経費が大きい中で、計画的ではなかったように感じる。

A 今年度購入することで財源的に有利になることから、昨年度は購入せず、レンタルで対応した。

pickup3 議案第13号 一般会計補正予算（第3号）

※地域活性化起業人制度とは
都市部に本社がある企業の社員が、一定期間地方自治体に派遣され、その専門知識等を活かして地域課題の解決や地域活性化に取り組む制度

移住・定住相談員を 地域活性化起業人として契約

本町の移住・定住政策について専門的知見でアドバイスをいただくため、東京都内にある移住相談センターに勤務する相談員を副業型地域活性化起業人として契約するため、110万円を増額補正しました。

なお、契約期間は令和7年10月から令和8年3月までで、最長3年間となっています。

昨年発生した能登半島地震や切迫する日本海溝沿いの巨大地震を踏まえ、高規格道路から市町村道に至る道路網の整備や老朽化対策など、国土強靱化の取り組みをより一層推進するため、新たな財源の創設及び必要な予算の確保、国土強靱化実施中期計画の早期策定、災害に強い道路ネットワークの推進、災害発生時の迅速かつ円滑な復旧等のため人員体制の充実、強化などを求めるものです。

国土強靱化に資する 社会資本整備等に関する意見書



※賞賜金とは
大会に出場する選手などを応援するために交付される「お祝い金」

多くの子どもたちの頑張りで、文化やスポーツ活動で全国大会等に出場する選手が増えたことにより、賞賜金102万円を増額補正しました。

全国・全道大会出場者の 賞賜金^{しょうしきん}を増額

■第3回議会定例会議決結果■

件名	結果
報告第1号 専決した事件の報告について	報告
報告第2号 専決した事件の報告について	報告
報告第3号 地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく報告について	報告
認定第1号 令和6年度比布町各会計決算の認定について	認定
認定第2号 令和6年度比布町各会計決算の認定について	認定
議案第1号 教育委員会委員の任命について	原案可決
議案第2号 固定資産評価審査委員会委員の選任について	原案可決
議案第3号 財産の取得について	原案可決
議案第4号 北海道市町村総合事務組合規約の変更について	原案可決
議案第5号 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について	原案可決
議案第6号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について	原案可決
議案第7号 比布町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第8号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第9号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第10号 比布町議会議員及び比布町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第11号 比布町簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第12号 比布町公共下水道条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第13号 令和7年度比布町一般会計補正予算（第3号）について	原案可決
議案第14号 令和7年度比布町介護保険特別会計補正予算（第1号）について	原案可決
議案第15号 令和7年度比布町簡易水道事業会計補正予算（第1号）について	原案可決
議案第16号 令和7年度比布町一般会計補正予算（第4号）について	原案可決
意見書案第2号 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書の提出について	採択



認定こども園・保育留学の 取り組みを実施する考えは

村中町長

「こども誰でも通園制度」の導入を経て 保育留学の検討を始めたい



さとう よし ひこ
佐藤 良彦 議員

□質問・佐藤議員

比布町に認定こども園「くるみ保育園」が誕生しました。施設内の環境は、遊具を含め道内トップクラスの内容だと、各地を見学して改めて感じています。

保育留学とは、家族で1〜2週間地域に滞在しながら、子ども達が地域の保育園に通える暮らし体験です。保育留学を体験する子どもには、心身ともにのびのび育つ環境を提供でき、家族には働きながら、子育てをしながらも多様な選択肢を提供できます。地域には、家族ぐるみの中長期的関係人口の創出や地域経済への貢献をもたらします。

保育留学の最大の魅力は、大自然を肌で体感できること、比布町ならではの魅力を提供できることであり、全国へ比布町の良さを発信すべき時期にきていると考えます。

比布町としても前向きな事業として捉え、実行に踏み切って欲しいと考えますが、町長の考えを伺います。

■答弁・村中町長

くるみ保育園は、昨年12月に新園舎が完成し、本年4月からは認定こども園として新たなスタートをしています。7月には中央ふれあい広場がリニューアルオープンし、町内外から多くの方々に越

しいいただき、新しい保育園が多くの人の目に触れていると思います。

今後におきましても移住政策に重点を置いた人口減少対策を進めていく考えですが、同時に関係人口の創出についても取り組みの必要性を感じています。

保育留学は、特に関係人口の創出や町の経済効果が期待できる制度と認識しています。都市に隣接した立地環境や交通の利便性など、本町の良さを知っていただける機会として有効な手段であると考えますので、担当課には制度の研究を指示しているところです。

また、令和8年度からは「こども誰でも通園制度」という国の制度がスタートするため、まずはこの制度の整備を優先し、制度の開始によって、保育現場ではスポット的に通園されるお子さんへの対応を経験されますので、本制度の導入を経て保育留学の検討を始めたいと考えています。

関 係人口創出事業の 進捗状況と考える

□佐藤議員 地方の活性化や人材不足解消のため、総務省では、新たな地域の担い手を獲得する施策として「関係人口創出・拡大事業」が既に始まっています。

比布町でも現状の縦割りから、

各関係部署が横断的にプロジェクトを形成し取り組んでいると聞いています。

現在、比布町が描いている「関係人口創出事業」における横断的プロジェクトの進捗状況と町長の考えを伺います。

■村中町長 庁内プロジェクトとして、交流人口・関係人口対策グループを設け、交流人口・関係人口の創造を人口減少対策の手段と位置づけています。

町の課題であるDX推進や農業における人材不足、特産品のいちご栽培の担い手確保、商工業振興の解決方法などについて、庁内プロジェクトを中心に検討し、実践につなげたいと考えています。

今後、移住相談の専門家を地域活性化起業者として招くことを検討しており、移住希望者が求める環境など、これまでの相談業務を通じて得た知見を活かし、PR内容の改善や比布町を深く知ってもらえる事業をお手伝いいただきましたと考えています。

まずは、定住に結びつきやすい近隣住民を対象とした取り組みから検討し、長期滞在が必要な場合は、町内の宿泊施設と連携を図るなど、町内の資源を活用した方法を併せて検討します。



一般質問 スバリ！ここが聞きたい

町内会が抱える課題と 現状への不安解消の為に

村中町長

今後も町内会と行政が協力し合い 住民主体の地域づくりを推進する

□質問・遠藤議員

自治体からの依頼事項（調査、配布、推薦など）に対し、町内会の運営が圧迫されていないか見直しが必要な時期にきています。

町内会の現状と課題として「町内会加入率の低下」「近所付き合いの希薄化」「地域活動の担い手不足」などがあります。（総務省ＨＰ）

その中でもコロナ禍をきっかけに町内会に起こった大きな変化がありました。その変化をコロナ後にどう活かされていたか。

ある町内会では、従来の行事が出来ない分の予算を会員に還元するなどの取り組みを行っており、先進的な優良事例の普及啓発が今こそ必要ではないかと思っています。

地域コミュニティとしての町内会は、「町内会の役割の多様化」「支援が必要な住民への対応」「防災面の取組への期待」と変化してきています。これからは企業等の勤務者や多彩な住民と地域の関係、新たな地域コミュニティ組織、文化・趣味等を通じたつながりを起こすことなどが求められます。

次の点について質問します。

①町内会費・交通安全協会費の集め方は町内会ごとにご苦労されていると思います。担い手が不足している中で今後の町内会活動をどのように構築していくか。

②年２回（５月・７月）実施している道路環境整備について、高齢化により出役できない方が増えている中、各町内会でそれぞれ工夫して取り組みを行っています。今後も継続して道路環境整備を行っていくために考えていることはあるか。

③多様な使用用途がある自治活動交付金が有効に活用できていない状況があります。改めて使用用途の周知徹底が必要だと思うが、どう考えているか。

④行政と住民の良好な関係をどう維持していくか。課題があれば見逃さず、解決し推進していくことが大切。町内会長、区長などの協力をどう築いていくか。

■答弁・村中町長

町内会是最も身近な地域コミュニティとして重要な基盤であると認識しており、行政としても町内会活動が負担とならないよう配慮するとともに、側面からきめ細やかな支援を行うことが重要であると考えています。

①地域の特性と多様な住民ニーズに応じた柔軟な運営に加え、住民と町内会とのつながりが大きな課題になると考えます。引き続き各町内会からのご意見を伺いながら町内会活動への参加を啓発するとともに、各種イベントやスポーツ

大会など交流のきっかけとなる事業を開催していきます。

②高齢化により負担が増えていることについては認識していますが、できる範囲のご協力をいただきながら環境整備の活動を続けていただければと思っています。

③使途については各町内会の自主性を尊重しています。地域活動が円滑に推進され、交流を深めることを目的とし、地域活動や清掃・美化活動・交流活動などに活用できます。

④行政区長会議などにおいて、身近な地域の課題をお伺いし、解決に努めています。

□遠藤議員 大規模災害時の防災当初の助け合いとして、町内会が避難施設の運営などに取り組むため、本町も備える事が重要です。今後も町内会が独自で主体的に動く手助けが必要だと思います。

■村中町長 町内会は、災害対策や避難所までの移動が必要な際、最も重要なコミュニティだと思いますので、役員の皆様などにはご苦労をいただいていると思いますが、引き続き「顔の見える関係」を大切にしながら、地域住民を代表する組織である町内会と行政が対等なパートナーとして協力し、地域の実情に応じた柔軟で持続可能な住民主体の地域づくりを推進していきます。



社会福祉協議会の運営について

村中町長

努力や成果に応じた検証は必要と考える



うえにし こういち 議員 榎西 浩一

□質問・榎西議員

社会福祉協議会（以下、「社協」）の事業を公共性の指標に照らして、重要性を鑑み事業運営に予算を割り振るべきではないかと思えます。また、優秀な職員を確保するのに人件費を惜しまない事が大切であるとの考えもあります。

社協への人員や金銭的な補助の在り方について伺います。

■答弁・村中町長

事業運営にかかる人件費や運営費、事業費などに対して、メニューごとに補助金の割合は異なりますが、必要な支援をさせていただいています。

また、社協内の訪問介護事業については、サービス利用者等の減少や事業所職員が社協内の他の業務も行うことなどから、収支不足分の9割を支援している状況です。

さらに、多様化する福祉ニーズに対応していくためには、今以上の協力を求めている必要があると考えています。そのためには今後の職員体制や財政的な支援方法などの検討も必要であり、人件費の検討もその中に含まれます。

地域福祉の先頭に立ち、地域の方々に一番近い団体として活躍いただけるよう、今後も社協との協議を重ねてまいります。

また、補助金を縮小する考えは

ありませんが、収入も求めているかなくてはならない団体ですので、努力や成果に応じた査定は必要と考えています。

□榎西議員 社協の現状をどのように把握し、評価していますか。

■村中町長 積極的な事業活動は必要だと思えます。

例えば、事業所の事務局として生活支援コーディネーターを担っていたのであれば、地域の実情がより把握できます。その中で支援が必要な方を確認し、地域包括支援センターと情報共有することで、最善の策が取れると思えます。

□榎西議員 中央慈善協会が始まった頃は、様々な寄付を募って運営がされてきました。しかし現在は、町内会も希薄化し、さらに長期にわたって続いたコロナ禍で葬儀が少なくなったり、企業の収益が上がらず寄付が少なくなるなど、地方の社会福祉事業の環境を苦しめるような状態が長く続いたように思います。そのため社協の運営を続けることが困難になってきたと考え、その環境について、町長はどのように把握されていますか。

■村中町長 最近はそのような慣例や文化が薄れてきているように思いますので、寄付環境については、今まで通りの収入にならない

原因のひとつだと思っています。

□榎西議員 慈善団体にとって寄付は重要な収入源だと思えます。この現状を鑑みて、比布町の財政も厳しいと思いますが、もう少し補助率を上げるという考えに至ってもよいのではないかと思います。考えを伺います。

■村中町長 近隣の社協で行っている事業など、町民のためになる事業をもっと積極的にやっていたければ、町として支援ができると思います。今後も社協役員と合意をしながら補助金の額は決定をさせていただきたいと思えます。

□榎西議員 近隣の社協の体制と比較すると、本町の社協の職員数は少ないようです。人数が多ければ様々な事業を行えると思いますが、人員体制についてどうお考えですか。

■村中町長 現在の業務量ですと適切な人数だと思います。

中央慈善協会とは？

1908年渋沢栄一が発足させた社会福祉協議会の前身。慈善事業の全国的連絡組織として発足。当時は、政府による救済・救護政策は乏しかった一方、篤志家や宗教家による慈善事業が盛んだった。



お金の使われ方をチェック

9月定例会では、議長及び議選監査の八巻良博議員を除く議員7人で構成する決算特別委員会（委員長 今井明信副議長）を設置し、9月9日から10日の2日間にわたり令和6年度決算を審議しました。

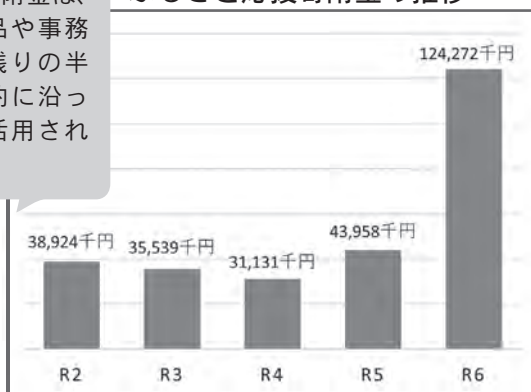
令和6年度
決算
認定

区 分		歳 入 合 計	歳 出 合 計	差 引	
一般会計		4, 795, 949, 341 円	4, 492, 129, 761 円 翌年度繰越額 30, 795, 000 円	303, 819, 580 円	
特別会計	国民健康保険特別会計	440, 851, 923 円	433, 309, 623 円	7, 542, 300 円	
	後期高齢者医療特別会計	79, 004, 553 円	79, 004, 357 円	196 円	
	介護保険特別会計	663, 838, 350 円	647, 764, 887 円	16, 073, 463 円	
	観光事業特別会計	189, 477, 485 円	161, 737, 403 円	27, 740, 082 円	
企業会計	簡易水道事業会計	収益的収支	157, 205, 049 円	188, 374, 073 円	△ 31, 169, 024 円
		資本的収支	55, 646, 000 円	100, 013, 903 円	△ 44, 367, 903 円
	公共下水道事業会計	収益的収支	68, 889, 298 円	76, 064, 460 円	△ 7, 175, 162 円
		資本的収支	5, 082, 320 円	16, 519, 800 円	△ 11, 437, 480 円

※企業会計の資本的収支における不足額は当年度分損益勘定留保資金等により補填

ふるさと応援寄附金は、約半分を返礼品や事務手数料等に、残りの半分は寄附の目的に沿って町の事業に活用されています。

ふるさと応援寄附金の推移



Q 米を返礼品とする寄附金が大幅に増加した。米の需要が増えたことが要因だが、町にとっては貴重な財源となる。米以外の返礼品を含めPRを強化してほしい。

A 昨年度は、返礼品の8割超が米となっていたが、今年度は米以外の返礼品も伸びている。新たな返礼品開発のために事業者間で話ができる機会を設けるなど、PRに努めたい。

ふるさと応援寄附金の更なるPRを
(谷口議員)

Q 道北バスの路線が比布駅を通るようになったが、乗降者数の把握はできているか。また、町サービスバスとの統合の話もあったが、現状はどうなっているのか。

A 道北バスで集計の対象になっていないため、正確には把握できないが、運転手の感覚では多くはないという話。サービスバスとの統合は、道北バスの経営上の理由もあり、進展していない状況となっている。

路線変更後のバスの利用状況は
(谷口議員)

Q 企業版ふるさと応援寄附金ほどのようなアプローチの仕方をしていくか。また、現状の実績、企業の評価はどのようになっているか。

A ホームページでの案内、仲介業者を介してのPRを行っている。企業には直接町長が訪問し、感謝状を贈る等、丁寧なフォローアップを行うことでリピーターとなることも多い。

企業版ふるさと応援寄附金のアプローチ方法は
(佐藤(良)議員)

コンビニ交付サービスの進捗状況は (大熊議員)

Q コンビニ交付サービスは進んでいるのか。また、申請業務などの行政DXについての考え方は。

A 令和6年度から開始したが、思ったより進んでいない。今後、国の政策によりコンビニ交付が進むと思われるので、広く利用してもらえよう周知したい。

地方創生に係るアウトソーシングについて (佐藤(良)議員)

Q 内閣府が進める地方創生に係る人材支援事業などを今後活用する予定はあるか。

A 現在、総務省が進める地域活性化起業人制度、CIO補佐官制度を活用している。町の課題をしっかりと確認し、活躍する人材をつくりたい。

防災備蓄品の充実を (遠藤議員)

Q 防災備蓄品として生理用品等を揃えることは当然と考えるが、大人用の紙おむつを日常的に使用し

ている方のために、備蓄品として用意されているか。

A 現在のところ備蓄品には入っていない。特に高齢者や女性の対応については、改めて備蓄品の整備を考えていく。また、スフィア基準にできるだけ近づけるように整備を進めたい。

スフィア基準とは？

人道支援における最低限の基準を示した国際的なガイドブック。



▲段ボールベッド

防災士の育成について (植西議員)

Q 防災士の育成について、現状どのように考えているか。また、町内に何人防災士がいるのか。災害があっ

た際に専門的な知識が働いたり、防災備蓄品としてどのようなものが必要なのか、具体的になっていくのではないか。自治体での活用方法がしっかり見えてくれば、防災士を増やしていくことは有効と思う。

A 正式ではないが、防災士は町内に2名いると聞いている。災害の少ない町だが、町の防災の中で活躍をしていただける体制も必要になってくる。道の地域防災マスター制度、国の地域防災マネージャー制度の活用も研究したい。

防災士とは？

災害から命や暮らしを守るため、防災・減災の知識と技能を身に着けた民間資格の保有者。



選挙時の有権者の対応に配慮を (遠藤議員)

Q 投票所の記載台の氏名掲示が小さいという声があった。もう少し有権者、投票に来た方に対して多様性を持った配慮はできないのか。また、公設掲示板に投票所での代理投票が可能なことや車椅子を用

意していることをPRしているとこもあるのでは考えてほしい。

A 道選挙管理委員会に確認し、努力したが、記載台の大きさもあり、サイズが限られてしまう。見やすくできるように様々な方法を検討しているが、代理投票を含めたPRについて選挙管理委員会で検討したい。

消防職員の体調管理について (植西議員)

Q 近年の猛暑により、職員の熱中症対策が必要になってきていると考えるが、十分な対策を行っているか。また、塩タブレットなどを一定程度備蓄しながら予防していくことも必要と考える。

A エアコン等を活用しながら通常業務を行っているため、一定程度の対策はできていると考える。塩タブレットは常備していないが、消防車には保存水を積み、補給、保水、体にかけるなどの対応を行っている。また、経口補水液の粉末を用意し現場対応できるようにしている。

経常収支比率悪化の原因と改善に向けた考えは（植西議員）

Q 経常収支比率の悪化は、扶助費などにおける一部事務組合の負担と、その他における施設維持補修費の高止まりによるものが挙げられるが、改善するための考えはあるか。

A 本町のように施設の老朽化や分散して施設があることで、経常経費の占める割合が大きくなると考える。施設を集約し、経常経費を削っていくことが必要。中央部4町では一部事務組合を結成し、事務の共同事務化を進めているが、今後どのような共同事務化が進められるのか検討していきたい。

経常収支比率とは？

収入のうち、毎年必ず必要となる支出（人件費、扶助費等）がどのくらいの割合を占めているかを表す指標。

適正に施設の修繕を

（遠藤議員）

Q 公衆浴場の女性用浴室の窓の網戸が機能していないため、窓を開

けたくても開けられない状況になっている。利用者の声を聴き、現場を確認するなどの対応をしてほしい。また、福祉的な観点で公衆浴場を残すことは大事と思うが。

A 現場を見て対応する。公衆浴場の維持管理については、財政的に厳しい部分もある。交流の場にもなっていることから、福祉的な観点で民間事業所を活用できるかなど協議を行っている。



▲公衆浴場

火葬場管理人の技術継承を

（大熊議員）

Q 火葬場にはベテランの管理人がいるが、今後の技術継承などをどのように考えているか。

A 現在1名体制で勤務をしていただいており、退職年齢は定めていない。火葬場管理人は長い経験も

あり継続したい意向だが、墓地管理業務もあり、体力的に厳しいという声もある。将来的には考えなければならぬと思っている。

労働相談について（植西議員）

Q 労働相談に来られる方が少ないと感じる。近年、雇用条件、雇用環境が厳しくなる中で、困っている人や我慢して働いている方が多いように思う。もう少し声を聴ける工夫が必要ではないか。また、ハローワークへ誘導し、通年的な相談体制を確立することが好ましいのではないか。

A 年2回の労働相談事業を行っているが、参加者は多くないため、困っている方がどのくらいいるのか把握できていない。また、ハローワークでの程度、相談にのつていた、だけるかわからないが、確認していきたい。

施設等の草刈りを

民間委託しては（遠藤議員）

Q 施設等の草刈りについて、職員

直営で行うより、民間事業者に委託した方が良い状況を保てるのではないか。

A 予算の削減を考え、職員で行っている。何かあれば対応したいと思う。

農業に携わる地域おこし協力隊の展望は（佐藤（良）議員）

Q 実際に就農までの準備や経費面でのハードルが高い。他町に行つてしまった例もある。他町のやり方を比布でも活かすことができないか。

A 本町は水稻・畑作での新規就農は地形的に難しい土地柄もあり、野菜等での就農が現実的と考える。人のつながりも大事になる。

子どもたちが活躍するために

（大熊議員）

Q 君の夢プロジェクトで部活動に対する支援を実施しているが、高校の全国大会の視察等を行い、子どもたちに次のステージで活躍できる道筋をつけてあげることができないか。

A子どもたちの活躍は町にとっても嬉しいこと。生徒の希望があれば視察は可能。君の夢プロジェクト推進協議会での話題にしたい。



▲君の夢プロジェクト（卓球部編）

スキー場へ団体客の誘致を

（谷口議員）

Qリフト使用料が増加した。内訳を見ると団体客の割合が多く、ありがたいと思う。カムイミントラDMOや民泊事業者と連携するなどPR方法を考え、広く誘致することが必要ではないか。

A集客対策は必要。ホームページの改修、インバウンド向けパンフレットの作成など、様々なことを戦略的に考えていきたい。

財産の管理について

（佐藤（良）議員）

Qぴっぷクリニックの前指定管理者の所有物と町の所有物はしっかり仕分けして管理できているか。
Aしっかり管理できている。前指定管理者の所有物は協議のうえ、町で処分をしている。

▽総括質疑

介護保険制度の期中改定について
（遠藤議員）

Q現在、崩壊危機にあるのは在宅介護のサービス基盤。事業者の休業、解散が増えており、その7割が訪問介護事業所となっている。創設時と比較しての介護報酬の削減が大きな要因で、そのため介護労働者の賃金は全産業の平均より低く、人員不足となっているにもかかわらず、政府は訪問介護の基本報酬を引き下げた。介護保険報酬の3年ごとの期中改定についての見解を伺う。
A毎年、最低賃金が上昇する中で3年ごとの改定は、制度に課題があると感じる。日常生活を送るうえで訪問介護事業は大切なもの。

要望を拾い上げ、サービスを受ける方が老後を安心して過ごすために、介護労働者が働き続けられる環境は必要と考える。

地域活性化起業人について

（佐藤（良）議員）

Q10月から移住定住のエキスパートが来ると聞いている。来られた時にどういうイメージの仕事をしてもらいたいのか、明確なビジョンが必要。現時点で迎えるにあたってどのような形で考えているか。
Aふるさと回帰支援センターで北海道を担当している方に来ていただくことになっている。これまで何人もの北海道移住者の話を聞いた経験がある方で、どういう方が移住を望んでいるか、移住にあたって何を気にしているか、様々な知見を持っていると思うので、これから移住政策を進めていくうえで活用を考えている。

財政から考える

比布町の未来とは（植西議員）

Q経常収支比率や財政指数を見ると、未来の財政に陰りを感じる。



▲決算特別委員会の様子

財政の安定化に向けていくつかの諦めを決断するときではないか。そして、新たなまちづくりに向けて出発する時期に差し掛かったものと感じている。連携中核都市圏により、良い施策が隣町にあれば、それを活用することで事業を展開し、予算を削減させていく事も必要と考える。町長が考える直近の未来の比布町をどう創造していくのか伺う。
A暮らしやすくするために扶助、支援事業を行えば、経常収支比率は増加する。一定のラインを考えながら財政運営を行っていく。連携中核都市圏の中で相互の施設利用や専門人材の設置などは模索しており、経費を削減しつつサービスを削減させないよう、全ての町民が幸せに暮らせる、住んで良かったと思える施策を考えたい。

委員会のactivities

活動

Q…委員からの質疑
A…担当からの回答

総務常任委員会

8月27・28日開催

税務住民課

《報告事項》

■令和7年度町税等の当初課税状況
■令和7年度町税等の収納状況（7月末）
■上川広域滞納整理機構収納状況

（説明）7月末現在の引受額は1,828,455円（4件）で、8月末に約10件引き継ぐ予定。

■戸籍及び住民登録人口等の推移
■所管施設の利用状況等

Q公衆浴場入浴料210円はいつから設定された金額か。

また、燃料費や電気代の高騰等を踏まえ、今後料金を改定する予定はあるか。
Aかなり前から設定している金額。費用対効果を考えると値上げをしなければ厳しい状況だが、今後の施設維持も考えながら検討していく。

《協議事項》

■第3回議会定例会提出議案
◇比布町固定資産評価審査委員会委員の選任
◇令和7年度一般会計補正予算

保健福祉課

《協議事項》

■第3回議会定例会提出議案
◇令和7年度一般会計・介護保険特別会計補正予算

Q保険者機能強化推進交付金、保険者努力支援交付金の算定根拠は。

A一般介護予防事業における運動機能評価や参加人数の増加、また地域包括支援センターの取り組み等に対して評価された金額となっている。



▲レッツ・リハ体操

《その他》

■社会福祉法人大悲会運営補助に係る令和6年度決算状況

Q補助金が約450万円戻ることだが、あそか苑の経営が改善した結果と感じる。これまで経営が落ち込んでいたのはコロナ禍や体制によるものか。

Aコロナ禍による影響も一つの要因と考えられる。

また、ICTの活用により業務の効率化を図ったり、資格取得等の人材育成にも取り組んでおり、職員の努力の結果が現れていると感じている。

■乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）

■その他

◇コロナワクチン接種について

（説明）今年度のコロナワクチン接種の自己負担について、非課税世帯は自己負担なし。課税世帯は6,900円（1回）となる。

これまで同様に接種対応できるよう努めていきたい。

教育課

▽総務係

《報告事項》

■令和6年度比布町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価
■令和7年度比布町文化賞及び文化奨励賞の推薦

▽学校教育係

■義務教育学校「比布中央学校」の視察

・枝幸町議会（10名）

・羽幌町教育委員会・学校管理職（8名）

■令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

▽文化振興係

- 英会話教室（6月23日～7月16日）
- キャリア教育事業「まなび場ぴっぷ2025」（8月5～8日）
- 練成会グループとの包括連携事業
- ・チャレンジゼミ開講式（5月28日）
- ・チャレンジゼミ集合学習（6月25日、7月7日、8月6日）
- 君の夢プロジェクトの開催
- ・ソフトテニス部（9月14・15日）
- ・吹奏楽部（10月10・11日）
- 青少年健全育成月間の取り組み
- としょかんまつりの開催
- 町民芸術鑑賞会の開催



▲としょかんまつり

▽スポーツ振興係

- 第16回全町親睦ミニバレー大会（6月15日）
- 子ども水泳教室（6月30日、7月7日、14日）
- 第1回上川中央地区中学生野球比布大会（7月26日）

- 第58回全町ソフトボール大会（8月31日）
- ウォータースプラッシュシャトル（地域おこし協力隊事業）



▲ウォータースプラッシュシャトル

▽所管施設委託業務発注状況

- ◇百年記念公園テニスコート横トイレ塗装工事
- ◇図書館トップライトシーリング打ち換え工事

《協議事項》

- 第3回議会定例会提出議案
- ◇令和7年度一般会計補正予算

《その他》

【教育委員会の事業が多く、年中忙しいのではないか。以前、事業の精査について意見をしたが、その後、進捗はあったのか。地域の団体等に依頼

し、教育委員会として事業を手放すことも考えては。A事業によって目的や対象者は異なるが、対象者が減少しているため事業を精査している。

また、今後体育協会主催の事業を予定しているため、少しずつ事業統合の検討も進めていく。

総務企画課

《報告事項》

- 第3回議会定例会提出議案
- 令和7年度普通交付税の決定
- 令和7年度人事院勧告
- その他
- ◇令和8年度職員採用試験
- ◇複合庁舎建設の提案

（説明）

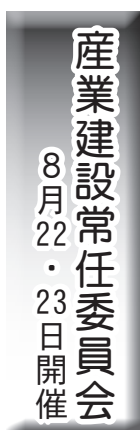
- ▽複合庁舎のコンセプト
- みんながつながる、笑顔を育む
- ▽目指す庁舎
- ①災害に強い庁舎
- ②エネルギー効率の良い庁舎
- ③町民にとって利便性の高い庁舎
- ④地域活性化につながる庁舎

複合庁舎について、現在、資材等の高騰により建設費が当初予算を超えることが想定されるため、庁舎の面積を縮小するなど、見直しを行っている。

- ◇地域活性化起業人（P2参照）
- ◇国勢調査の実施

《協議事項》

- 第3回議会定例会提出議案



農林課

《報告事項》

- 農作物の作付状況
- 熊の目撃情報
- 【目撃件数】 12件

（令和7年8月18日現在）

《協議事項》

- 町単独補助事業

商工観光課

《報告事項》

■ 商工観光課関係事業経過報告

■ 令和7年度観光施設の利用状況

(1) グリーンパークびっふ

(2) 良佳プラザ・遊湯びっふ

■ 各イベント等の実施状況

(1) びっふいちご狩り

【開園期間】 6月17日～7月6日

【来園者数】 9,902人

(2) 第3回びっふ夏まつり

【開園期間】 8月3日

【来園者数】 約1,600人



▲第3回びっふ夏まつり

■ 地方創生臨時交付金を活用した事業

◇ 2025比布町生活応援商品券

給付事業

【給付者数】 3,379人

(1,741世帯)

【給付枚数】 33,790枚

■ ふるさと納税の状況

【件数】 769件

【金額】 2,230万円

(令和7年8月11日現在)

《協議事項》

■ 第3回議会定例会提出議案

◇ 財産の取得について

◇ 令和7年度一般会計補正予算

■ 良佳プラザ・遊湯びっふ次期指定管理者の選定

【Q】委託料について、今後、町の負担が減るという考えはあるか。

【A】担当課の考えとしては、現在の運営方法で財政負担が減ることは極めて難しいと思う。町民が必要と考えるのであれば継続しなければならぬが、経営・運営形態は別に考える必要がある。

建設課

《報告事項》

■ 建設工事の発注及び進捗状況

【Q】北12線川浚渫工事は何度も行っているが、根本的な解決はできないのか。

【A】山の斜面が洗掘されて堆積したもの。根本的な解決は難しく、除去をしていくしかない。

※浚渫工事とは

川や河川の底に堆積した土砂や泥、石などを取り除く工事のこと。

■ 道路環境整備事業等の実施状況

《協議事項》

■ 第3回議会定例会提出議案

◇ 令和7年度一般会計補正予算

◇ 令和7年度簡易水道事業会計補正予算

◇ 比布町簡易水道事業給水条例の一部を改正する条例

◇ 比布町公共下水道条例の一部を改正する条例

農業委員会

《報告事項》

■ 農地法及び農地バンク法による農地集積状況

次回の議会定例会の予定

12月 4日(木) 本会議(一般質問・議案審議)
5日(金) 本会議(議案審議)

※日程等は変更になる場合がございます。
詳しくは、町ホームページや防災無線でお知らせします。



研修報告

北海道町村議会議員研修会

多様な人材が参画する 地方議会へ

令和7年度北海道町村議会議員研修会が7月8日札幌コンベンションセンターにて開催されました。

初めに「地方議会における議員の多彩化に向けて、地域社会の『鏡』としての議会を考える」と題して、西南学院大学法学部教授 勢一智子氏が、多様な経験をした多様な世代が多様に参画する議会としての社会変革が必要であると話をされました。

次に人口戦略会議 副議長 増田寛也氏が「人口減少社会を生き抜くために」と題し、町村事務の見直し、関係人口の制度化、国への



▲増田 寛也 氏



▲勢一 智子 氏



要望を上げる、若者や女性に選ばれる自治体になるなどの話をされました。

総務大臣の経験をした増田氏は「千歳のラピダスはデジタルを作った取り組みに」「上士幌町のドローンで郵便物を運ぶ」「厚岸町の困りごと解決をミーツ・ライン・電話などを使って」との身近な北海道の事例を話されました。増田氏の話に皆さんが一言も逃すまいとの気持ちで聞き入りました。

有益な時間を頂き、ありがとうございました。

（遠藤ハル子）

研修報告

比布町青果振興会役員・関係機関研修会

丹精込めて作られた フルーツトマト栽培を視察

7月22日J.A.ぴっぴ町青果振興会役員並びに関係機関との研修会に産業建設常任委員会に参加してきました。

フルーツトマトの生産について、町内の稲場さんの圃場で、経過や苦労、近年の気候変動による栽培過程等の状況を説明していただきました。

令和2年より栽培を開始しており、数ある品種を試験栽培してきて、令和5年より「レディーファースト」に品種を絞って面積50坪生産しています。

このトマトの特徴は大玉で、お



尻の部分が尖った形をしており、皮が薄く甘みと酸味のバランスが良いことが挙げられます。

近年は連日の猛暑、さらには水不足による果実の生育不良に悩まされています。改善するよう肥料を与える量を工夫したり、栽培の難しさに四苦八苦している様子をお聞きました。

農家さんの丹精込められて作られた農産物が各地に出荷され、多くの人に食べてもらえるよう厳しい猛暑の中頑張っていると思います。

（大熊 勝幸）

北海道町村議会広報研修会

町民目線に立った 議会活動が伝わる広報紙へ

北海道町村議会広報研修会が、令和7年8月19日に札幌市内のホテルで開催され、広報特別委員で参加して参りました。

講師の議会広報サポーター芳野政明氏に「議会の見える化」と「住民との信頼築く」と題して講話をいただいた後、各町から提出のあった議会だよりについて、広報クリニックスを行い、より良い広報紙にするためのご意見をいただきました。

り組み、比布町の活性化に繋げるのが活発な議会運営であり、議会広報だと考えます。

更に読みやすく、理解しやすい広報紙を作り上げ、皆さんと対話をしながら一歩一歩進めて参りますので、より良いまちづくりにご協力をよろしくお願いします。

(佐藤 良彦)

議会だより123号から、紙面のリニューアルを行っています。より良い議会だよりに向け、ご意見等お待ちしております！



北海道大学公共政策大学院サマースクール

地域の資源を生かしたまちづくり

北大では公共政策の基礎となることを様々な視点から課題にし、議員・公務員そして議員候補者を集め、議論をしています。

今夏は、「北海道の豊かな自然と資源を生かした観光まちづくり」をテーマとして、一日目には成功事例の講演を聴き、二日目には各地から自地域の観光資源を持ち寄って、架空の町でツアーを創り出そうという試みをしました。

一日目の島根県の六次化事例で「田舎町の食材付加価値を上げる取り組み」が印象的でした。

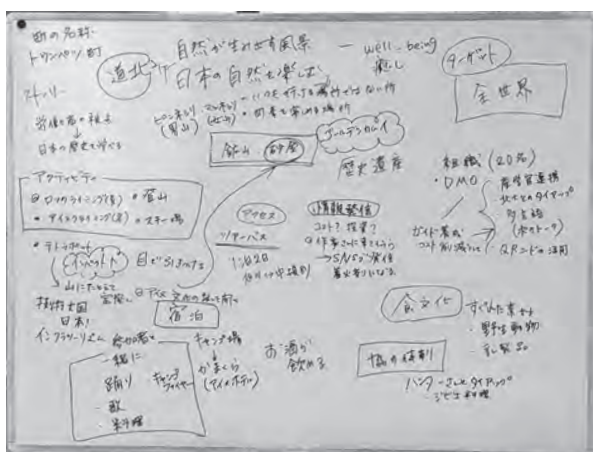
私がグループリーダーを務めたチームでは、北海道の特徴でもある四季の変化を感じられる場所、日常ではない風景の中での遊び、そして日本のインフラに興味を持つ外国人を満足させるための見学ツアーを計画しました。(写真はグループ発表時のホワイトボード)

新しく箱物を作って客寄せするのではなく、今あるものを最大限生かそうとする取り組みは、財政がそれほど豊かなくても実践で

きます。そして、北海道の自然や食べ物は現状でも十分に満足させられるものです。

しかしそれらをどのように組み合わせ工夫するかが課題です。他グループの発表を見る事で、さらに問題解決への視点が鍛えられ、とても有意義な勉強会でした。

(植西 浩一)





広報委員が聞く！

町民インタビュー



「農地を貸しても農地に住みたい」

なかた そういち 中田 荘一さん、きよみ きよみ 喜代美さん（2区）



90才になったの心境は？（荘一さん）

26才で結婚し、東鷹栖の親から分家を言い渡され比布の今の農地に移住して来た。凶作の時もあったし馬耕作から機械で耕作へと変わり借金もした。減反政策を機に昭和45年に荘一さんは水道設備会社へ、昭和56年に喜代美さんは建設会社へ勤務しながら農家を続けて来た。今は農地を貸しても農地に住みたい。夫婦二人で畑1反の自家菜園を作りながら「お互いの出来ないことを補い合ってきたから今が一番幸せだな」と思っている。

議会に期待することは？（喜代美さん）

三平サロンや2区憩いの会などは送迎してくれるので出掛けられており、認知症予防にもなっています。

以前からぴっぷクリニックに通院していましたが、送迎が無くなったため、公共交通政策の充実を提案して欲しいと思います。

（インタビュー：遠藤ハル子）

「花に助けられて元気でいられます」

ながおか しづこ 長岡 志津子さん（中町）



園芸をしていて楽しいと感じることは？

花を買ってくるのではなく、種から植えて育てることが楽しいです。小さなハウスで昨年からスイカを植えてみたりと色々挑戦しています。

日々の生活にどのような変化がありますか？

膝や足が痛くても室内にこもらず、花に水をあげようと外に出るので、太陽にあたり元気でいられます。花に助けられていますね。

議会に期待することは？

人数も少なくなり、何をやるにも大変だと思いますが、地区の方との懇談会を開催されていたり、これからも良い方向に変わってほしいです。

議会だよりも読んでいます。

（インタビュー：谷口雅浩）

編集後記



この広報は、発展途上にあるものの究極は、印刷物ではなくインターネットでの配信であると考えています。

そして、YouTubeでの配信に注釈などを付けて、会議で何が発言されたのか、どのように施策が決められたのかをすべて公開し、その案内役として、適切な「目次」を作る事にあるのでは無いかと考えています。

しかしながら、インターネット環境が未整備の場所もあるため、そこへの補てんをどうするかという問題も同時に考えなくてはなりません。

また、AI（エーアイ）で文書をまとめることが普通になりつつある現代において、人がまとめる効率の悪さと先入観・感情移入による表現の自由をどの程度、許容して頂くかも課題です。

しかし、それでも比布町の運営は滞りなく進んでいるのです。あなかしこ、あなかしこ

（植西 浩一）



＊議会広報特別委員会＊

委員長 植西 浩一
副委員長 佐藤 良彦
委員 遠藤ハル子
大熊 勝幸
谷口 雅浩